

# ビジネス文章・技術文章の正しい書き方【会場・オンライン同時開催】（4126108）

ビジネス文は簡潔・的確に伝えなくてはなりません。書き方にはルールがあります。構成の仕方にも標準的な形式があります。文章が書けるとは、自分で自分の文章を適切に直せることです。それを可能にするための講座です。この講座で、文法分析と標準形式での構成方法を学びましょう。

開催日時	2026年8月4日(火) 10:00-17:00	
JUAS研修分類	ビジネススキル(ビジネス・コミュニケーション)	
カテゴリー	業務遂行スキル <b>専門スキル</b>	
講師	丸山有彦 氏 ( myコンテンツ工房代表：業務改革・文書コンサルタント ) 1962年生まれ。専門学校にて講義およびテキスト作成に従事。同時に歴史研究者に師事し基礎研究法を学ぶ。その後、失語症の言語訓練を研究、渋谷失語症友の会副会長。訓練法を子供の作文指導、職業訓練に応用。その経験から新しい日本語の文法を構築する。現在、企業向けにビジネス文書、文章の指導を行っている。 myコンテンツ工房代表。渋谷油絵教室代表。 ブログで情報発信をしております。 ご興味ある方はご覧ください。 http://mycontentslabo.com/	
参加費	JUAS会員企業/ITC：35,200円 一般：45,100円（1名様あたり 消費税込み、テキスト込み）【受講権利枚数1枚】	
会場	一般 <b>社団法人日本情報システム・ユーザー協会</b> （NBF東銀座スクエア2F）	
対象	正確な日本語の書き方を学ばれたい方 <b>初級</b>	
開催形式	講義	
定員	25名	
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。（2時間1ポイント）	
ITCA認定時間	6	

主な内容

■受講形態

【選べる受講形態】

A. 会場にてご参加

B. オンラインにてご参加：【**セミナーのオンライン受講について**】

■テキスト

A. 会場にてご参加：当日配布

B. オンラインにてご参加：開催7日前を目途に発送（お申込時に送付先の入力をお願いします）

※開催7日前から開催前日までにお申込の場合、テキストの送付は開催後になることがあります。ご了承ください。

■開催日までの課題事項

特になし

◆当講座はオンライン参加も可能な講座となります ◆

文章を書くとき何に困るかを聞いてみると、答えはシンプルです。「何を書いたらよいかわからない」「どう書いたらよいかわからない」という答えで、ほぼ尽きています。さらにビジネス文の書き方について、習ったことがないという話になります。ビジネス文は簡潔・的確に伝えなくてはなりません。書き方にはルールがあります。構成の仕方にも標準的な形式があります。文章が書けるとは、自分で自分の文章を適切に直せることです。それを可能にするための講座です。

日本語はすべての学問を記述できるグローバル対応のできた言語です。しかし記述の仕方についての教育が遅れてきました。ビジネスの進展で文章が書ける人が必要になった時、英文法が一気に普及しました。日本語には、まだそうした機能を持つ文法がありません。文章構成にしても、国際的に通じる文章の書き方のトレーニングが十分になされていません。この講座で、文法分析と標準形式での構成方法を学びましょう。

<内容>

1 文章のトレーニング方法

- [1] 法律学の記述方法から学ぶ
- [2] ビジネス文・技術文を書くための原則
- [3] ビジネスの成立と文章：歴史的経緯
- [4] ミクロとマクロのアプローチ

2 標準形式の構成

- [1] 逆ピラミッド形式と「起承転結」
- [2] 文章構成のトレーニング：社説を検証
- [3] 逆ピラミッド型の失敗事例
- [4] メールでの逆ピラミッド構造

3 マクロのアプローチ

- [1] 形式からのアプローチ
- [2] 内容の確認：事実と解釈
- [3] マネジメントからのアプローチ
- [4] 書くための基本的な方法

4 文章の素材と構成

- [1] メモの取り方：文章には素材が必要
- [2] 本の読み方：ノートの作り方
- [3] 「構造化」と「知識化」
- [4] 構成メモから文章構成へ

5 センテンスのルール

- [1] 特集記事の問題点：文章読本のアプローチ
- [2] アミラーゼ問題：通説的な日本語文法の問題点
- [3] 優秀と言われた社員の困った文章
- [4] 日本語センテンスの基本構造

6 日本語の文法

- [1] 日本語の要素と助詞の構造
- [2] 日本語の構文：文末の4系統
- [3] 「は・が・を・に・で」と「の・と・へ・も」
- [4] 自説の必要性：主体者・当事者の問題

7 グローバル化時代の記述

- [1] 翻訳に堪える日本語
- [2] 電子化による読まれ方の変化
- [3] 生成AIの文章を超える：得意と苦手
- [4] 自分の文章を修正するルール